



かさほらのりゆき
笠原則孝 議員

運営

前橋市との連携を深め玉村町を 発展させよ

「私の視点」

近隣の前橋市では新市長が誕生した。それも石川町長と意を同じとする首長である。これを契機に前橋市との連携を一層深め、玉村町を発展させるべきだ。

答弁(町長) 共鳴する認識をもとに様々な課題に取り組む

問 石川町長も2期目となり、町政運営の舵取りも大分慣れたことと思う。近隣の前橋市で誕生した新市長は、石川町長と意を同じとするようであるが、前橋市との連携を一層深め、県の中心の要の町として、この玉村町を発展させるべきではないか。

答(町長) 町政2期目を託された謙虚に受け止めている。

前橋市長に新たに就任した小川あきらさんと共通する認識は、町政や市政は党派政治ではなく、町民、市民本位の政治であるべきということである。また、人口減少社会の中で、若者や女性が働きやすく、子育てしやすい仕組みを充実させることは最優先課題ということも共通認識であると考えている。

これら、共鳴する認識をもとに「県央」という地勢的狀況も踏まえ、様々な課題に取り組んでいくことができると考えている。

町の人口減少対策

問 元総務大臣の増田氏によれば、2040年までに人口が極端に減少し、消滅する可能性のある自治体は49.8%あると予測している。現在、玉村町も人口減少傾向にあるが、町はどのように向き合う考えでいるか。

答(町長) 去年10月、上毛カルタの「ち」の札が、30年ぶりに「力あわせる二百万」から「百九十万」に変わるというニュースがあった。少子高齢化が進む中での人口減少は、我が町も例

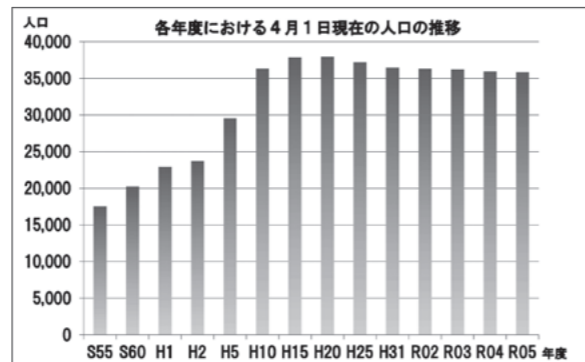
外ではなく、幸いにも穏やかな減少ではあるが、平成16年の3万8373人から、現在は3万6000人を割る状況である。

まずは、若い方々の結婚や子育てへの支援を継続して取り組み、経済的な結婚新生活への支援や、妊娠・出産に対するサポート、子育てに対する幅広く・長い期間の支援を引き続き展開していく。

また、町外から人を呼び込む政策では、移住支援金支給制度や空き家対策の拡充、学校環境の整備などがある。玉村町の魅力をより一層発信し、玉村町を選んでいただけるよう努めていく。

こんな質問もしています

- ・魅力発信機構発足の成果について
- ・EV充電スタンドの設置について



玉村町の人口は減少傾向。人口減少克服に向けた取組を進めよ

令和6年3月定例会

町の課題や今後について、議員が提案も含めて町に考えを聞く「一般質問」。本会議において、白熱した論戦が繰り広げられます。3月定例会で登壇した10人の議員はどんな視点で質問し、そして町はどう答えたのか。町の「今とこれから」が見えてきます。

10人の 論戦

鋭く迫る！ 一般質問



皆さんは、どのキーワードに関心がありますか？

まちづくり

- 前橋市との連携を深め玉村町を
発展させよ (笠原 P.13)
- 町の人口減少対策 (笠原 P.13)
- 玉村町版少子化対策の研究を
(月田 P.14)
- 町営住宅の建て替え計画 (備前島 P.15)
- 空き家のごみ処理支援 (羽鳥 P.19)
- 担い手への農地利用の集積・集約化
(松本 P.20)

子育て・教育

- 学校給食費無償化 1億4000万円の
財源は (備前島 P.15)
- 保育所における保護者の負担軽減策
(備前島 P.15)
- フリースクール等と連携を図る考えは
(松本 P.20)
- 中学校部活動の地域移行は慎重に進めよ
(三友 P.21)
- 子育てに関する条例制定を求む
(三友 P.21)
- 学校等の遊具の設置及び維持管理状況は
(小林 P.22)

交通・防災

- 町の地震対策 (月田 P.14)
- 防災・減災への取組 (備前島 P.15)
- 早急に、防災行政無線の整備を
(新井 P.16)
- 登下校時、児童生徒の公共交通
利用は可能か (堀越 P.17)
- 子ども安全協力の家 (堀越 P.17)
- 玉村町における災害時の対応
(堀越 P.17)
- 他市町村と災害協定を結ぶ考えはあるか
(高橋 P.18)
- 乗合タクシーたまりんは全面転換になる
のか (羽鳥 P.19)
- 地域防災計画の周知方法や地域との連携
(小林 P.22)

福祉

- 介護保険料基準額の引下げ実施
(羽鳥 P.19)

※ () 内は質問者と掲載ページ

全文記録(会議録)は5月末に議会ホームページで公開予定です。



玉村町議会会議録

次のページは



月田議員



備前島議員

一般質問